



真宗高田派本山 専修寺

高田本山だより

令和7年 秋号

143



高田本山 HP

令和7年秋号（第143号）／発行・令和7年9月1日／〒514-0114 三重県津市一身田町2819番地 TEL 059-232-4171 www.senjuji.or.jp



常磐井和子大裏方様を偲んで

令和七年七月七日、常磐井和子大裏方様が九十四歳にてご逝去され、八月二十日に本葬儀式が執り行われました。

今日に至るまで、前法主殿を献身的に支えられておられたお姿、又、坊守会・婦人会の活動を非常に大切にされ、皆さんの先頭に立って積極的に御本山婦人会の活動に、ご活躍されましたお姿、真宗高田派聖典を出版され、ご逝去される直前まで、御開山聖人の御消息の研究に心血を注がれるなど、常に学問の研鑽を積まれておられたお姿は皆様が良くご存知の事であります。

昭和四十九年五月（五十一年前）、大裏方様『白道』発刊のことばには

「御開山親鸞聖人の八百一回の降誕会を間近にひかえ、この度、派内の坊守の皆様にもけて、その御信心をいっそう深め、その責任の一助ともなりますように、小誌『白道』を発刊いたしました。誌名は、善導大師の二河譬の「正しく水火の中間に一つの白道あり…渡るべし。」によりました。文中の「水火」は貪愛瞋憎を、「白道」は本願の大道をあらわします。すなわち娑婆世界の業苦の中にあつて、念仏一節に生きよとの教えであります。

どうか、「白道」誌にこめられました願いを汲みとられまして、今後とも愛読し活用していただきますようお願いいたします。」と、私たちの歩む道をお示しく下さいました。

その白道のみ教えのままに「寂しさ・悲しさを、尊いご縁といただき」謹んで御念仏を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

合掌

真宗高田派 宗務総長 増田修誠

「日々の感謝を忘れずに」



夏と言えば、子どもたちにとって

は最も楽しい季節ではないでしょうか。それは、夏休みがあるからです。テレビのニュースでは連日暑さが報

じられ、行楽地で楽しむ子どもたちの様子が映し出されます。多くの人がこの一大イベントを経験したこと

があるでしょう。私自身も子どもの頃、様々な場所に連れて行ってもらい、宿題を休みの終わりに慌てて仕上げたことを思い出します。

その中でも、毎年楽しみにしていたのが、祖父母の家に泊まりに行くことでした。優しい祖父母と一日を過ごし、夜も一緒に眠りました。いつもと違う環境にワクワクして、なかなか眠れないこともよくありまし

た。

そのような時、祖父は

「眠れなければただ目を瞑る（つむ）だけでいい。そして心の中で『今日も一日ありがとうございました』と唱えなさい」

と言ってくれました。当時はその言葉の意味がわかりませんでしたが、時が経ち大人になった今、忙しい日々を送る中で、その意味をふと思い出すようになりました。

「光陰矢の如し」という言葉の通り、日々はあっという間に過ぎ去ります。忙しさの中で明日も当然のようにならなくてはならないと思いが、実際にはそうとは限りません。そんな生活の中で、日々の大切さを

教えてくれるのが「南無阿弥陀仏」というお念仏ではないでしょうか。

祖父の言葉、「今日も一日ありがとうございました」という感謝の意味は、一日が当たり前ではなく、今日無事に過ごせたことに感謝するということだったのです。日々の忙しさに埋もれがちな私にとって、この感謝の気持ちを忘れずに持ち続けることが大切だと、あらためて祖父の言葉を味わっています。

三重二十二組西部

欣念寺衆徒 田中 光明



御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075) 371-0854・8181～2番
FAX (075) 344-2701番
振替口座・0170-3-972番 郵便番号600-8344

創業1586年



松井建設株式会社

取締役社長 松井隆弘

執行役員支店長 小沢一彰

本社 東京都中央区新川一丁目17番22号 ☎03-3553-1150
名古屋支店 名古屋市中区栄五丁目28番12号 ☎052-249-4771

浄土真宗なんでもQ&A

浄土真宗の教え

ペットの葬儀はおかしいですか？ ～ウパーヤの相～

近年、ペットの葬儀の需要が高まっています。しかし、これについて賛否が分かれることも事実でしょう。このことについて、私たち佛教徒はどのように向きあうべきなのか、皆様と共に訪ねさせていただきます。

まず、大前提として、佛様の救いの対象は、人に限るものではなく、全ての生命にむけられていることは、様々なお経（經典）からお聞かせいただけることです。このことから、人以外の生き物のために葬儀をしてあげても、佛教に反することはないようにも思えます。しかし、そもそも葬儀とは誰のためにあるのでしょうか。このことを見失ってしまいうすと、途端に佛教では無くなってしまいます。

今、私のもとへ届けられた佛教とは、約二千年五百年前のインドにおいて、苦しみを抱えながら生きる人々に対して、釈迦如来が佛の世界より人の世界へと超越してくださり、人の相をとり、人の言葉でもってお説きくださった御教えです。このことを古代インドの言葉で「ウパー

ヤ」、漢訳すると「方便」と言い、佛様（救う側）から衆生（救われる側）への「歩みより」を意味する言葉です。人とは、言葉に喜び、怒り、哀しみ、楽しみ、一喜一憂する生きものです。そんな言葉をなくして生きることができない私めがけて、今ここに言葉でもって喚びかけ、

文字となり伝わったものが、お経なのです。つまり、生命を閉じこの世を去っていったペットのためではなく、大切な存在を亡くし、哀しみ苦しむ「私」へと投げかけられた佛様の救いの声なのです。「愛するあの子のため…」その心は尊いものです。その心こそが葬儀を執り行うきっかけとなったことでしょう。しかし、その心は私がつくりあげた心だったのでしょいか。いいえ、そうではないはず。その心は、自らの「死」というご縁でもって、私に知らせ、気づかせ、与えてくださった心であり、私が佛教に遇うための導きとなってくれたのです。その存在が、人であるのか、動物であるのか、どのような相であるべきか。それは、まったく問うべきことではない

でしょう。私の愛しき者となり、歩みよってくださった相なのですから。

そんな尊い導きによって執り行う葬儀であれば、まさしく佛教であると言えることでしょう。そうした葬儀の中で「南無阿彌陀佛」という言葉となり、私の声の相となってまで、歩みよってくださる阿彌陀佛に遇うきっかけをいただけたこと、感謝せざるを得ないことですね。
(教学院第三部会)



伝統を引き継ぐ左官職人舎

一層築舎

Sochikusya Co.,Ltd

伝統的な社寺建築、古民家や一般住宅・店舗の修繕、リフォーム、リノベーションなど、自然素材を活かした壁や空間を提案します。

建築工事 / 左官工事 / 外構工事 / 現場施工管理

〒510-0031 三重県四日市市浜一色町 16-35

TEL 059-332-1444 FAX 059-344-2627

E-mail : souchikusya@gmail.com URL : <https://tutikabe.net/>

法衣・仏具製造及び販売



井筒法衣店

代表取締役社長 今岡規代

本社

600-8468

京都市下京区堀川通

新花屋町角（西本願寺前）

Tel 075-351-1234

0120-075-720

Fax 075-341-7905

東京店

160-0008

東京都新宿区四谷

二条町十四番地 二一

Tel 03-3358-1500

Fax 03-3359-8902

オンラインショップはこちらから →



「燈炬殿だより」

専修寺の蓮に思う

夏の高田本山専修寺は、境内に咲く蓮の花でも有名です。私は、京都の友人とともに、蓮オーナーになっています。専修寺の宝物館「燈炬殿」に奉職以前、令和二年からで、今年で六年目になります。夏の開花時期には、ほぼ毎朝写真を撮って友人に送っています。朝早くに境内に参りますと、蓮の鉢に水をやってくださっている作事さんが「おはよう」とお声がけくださいます。やがて鐘が鳴り、七時には、勤行の始まりを告げる拍子木の音が御影堂から響いてきます。

蓮のつぼみが鉢の水面から顔を出し、



蓮の葉を光背にみたてて伸びるつぼみ

やがて背を伸ばしはじめると花の咲くのはまだかと、期待が高まります。たいていは、七日ほどで開花します。放射状の葉脈をもった大きな葉を光背にみたてて伸びるつぼみや荘厳に開く花の美しさは、何回見ても見飽きることがありません。

宝物館の学芸員の栗原さんが、「蓮は、お浄土に咲く花ですよ」と教えてくださいました。親鸞聖人がもつともよりどころとされるのは『阿弥陀経』、『観無量寿経』、『無量寿経』の三巻からなる浄土三部経です。そのうち『阿弥陀経』には、阿弥陀如来の国土・極楽浄土には、金・銀・瑠璃・瑪瑙・磲磔・赤珠、玻璃でできた池があり、この池には大きな蓮が咲いていて、ことが記されています。

また、『無量寿経』には、阿弥陀如来



阿弥陀経曼陀羅（部分・轉輪寺蔵）下半部に蓮が描かれている

がまだ法蔵菩薩であられたとき、すべての衆生をもれなく往生させるとの誓いを立てられたこと、そして長い修行の末、本願を成就され、ついに阿弥陀如来となられ、同時に衆生が往生させていただく極楽浄土も成就したと説かれています。

今年七月から八月にかけて宝物館「燈

炬殿」では、仏教文化講座特別展観「阿弥陀さまの世界へようこそ—経典に説かれるお浄土」を開催しました。その折、職員の藤谷さんから「明和町の轉輪寺さまのご厚意で展示中の浄土三部経曼荼羅にお浄土の様子が描かれますよ」と教えていただきました。

ええじゃないか
～いい旅いい発見～

毎週月曜日 よる7時
(毎週土曜日 ひる12時再放送)

TVで見逃し配信!

三重テレビ放送

高田本山御用達
三重県仏教会御推薦

石碑
記念碑
燈籠

高級御影石専門店

御影石材株式会社

〈石に御用の方は〉 イシニヨコオ

☎ 0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前)
☎ 059-224-1700(代)

親鸞聖人は、阿弥陀如来の本願、とりわけ十八願のはたらきにより、念仏者のだれしもが往生して蓮の上に生まれることが出来ると説かれています。

展示された三幅のいずれでも、阿弥陀如来は、蓮の池のすぐそばに坐しておられ、慈悲の心で私たちを身近に見守っていただいていることが読み取れます。

さて、専修寺には、蓮だけでなく、一年を通じて、山茶花、木蓮、桜、^{くちなし}梔子、藤、牡丹など、季節に応じて様々な花が開き、まさにこの世においてお浄土を見る思いがいたします。いずれの花も、作事や護持会など多くの皆様のお力で手入れされています。先日、お世話いただいているお一人の方とお話しする機会がありました。「いつもありがとうございます」と申し上げたところ、「いえいえ、ただただお役に立てることがうれしくてやっているのですよ」とのご返事、有難いお言葉と、感銘を受けました。

こうして、私は、今年の夏、蓮をきっかけにお浄土や親鸞聖人のみ教えに触れるありがたい機縁を頂いたのです。

咲く花に 浄土教わる 凡愚かな

専修寺宝物館「燈炬殿」

館長 大野 照文

第五十五回 お七夜献書展 作品募集

左記の課題で第五十五回お七夜献書展の作品を募集しています。
詳細は高田本山HPを参照、もしくは宗務院までお尋ねください。

令和七年九月

主催 真宗高田派宗務院（☎059・232・4171）

後援 中日新聞社・一身田商工振興会・高田会館

第五十五回お七夜献書展課題 作例

しん
たかだたろう

幼児

こえ
小一 高田たろう

小1

三宝
小二 高田太郎

小2

弥陀の本願

中一 高田太郎

中1

正像末法和讃

中二 高田太郎

中2

我建超世願
斯願不満足

必至無上道
誓不成正覚

高田太郎

不退の位すみやかに
恭敬の心に執持して

得んとおもわん人はみな
弥陀の称号称すべし

高田太郎

高校・一般

安心

小三 高田太郎

小3

無上道

小四 高田太郎

小4

五思惟劫

小五 高田太郎

小5

特留此経住百歳

中三 高田太郎

中3



古今楷定

小六 高田太郎

小6

人口減少社会へ突入した地域に必要なのは「お寺」だと思う。

対話から生まれる情報発信や
コミュニティをサポート！

三重に暮らす・旅するWEBマガジン

OTONAMIE

otonamie 14,500フォロワー突破！
mail otonamie@gmail.com
tel 059-268-3538 (書印刷工業株式会社)



お寺の実績
紹介記事

お寺とともに
地域をつくる。

永田文昌堂

最新刊

① 鏡如上人(大谷光瑞)及び籌子裏方年譜
赤松 徹真編 定価15,400円(税込)

本年譜は、本願寺教団の管長・宗主として多角的な視野と構想により教団を統率・運営し、内閣顧問などにも就任した鏡如上人(大谷光瑞)と、総裁として各地の仏教婦人会の結成や活動に尽力した籌子裏方の事績を編纂したもの。

京都市下京区花屋町通西洞院西入 TEL 075-371-6651 FAX 075-351-9031

最新刊

② 『俱舍論』とその諸註釈における三世実有論批判の研究—仏教の時間論—
那須 円照著 定価12,100円(税込)
アビダルマ仏教の最盛期の学説綱要書である『俱舍論』において、世親が、経量部の現在有体過未無体論の立場から、説一切有部の三世実有論に対して行った批判について解説し、さらにその原典を和訳したもの。

こんな行事が
ありました

第五十八回 高田派婦人連合大会



法主殿のお言葉



山崎龍明師のご講演



6月1日、真宗高田派の婦人連合大会が高田本山で盛大に開催されました。多くの参加者が集まり、式典は厳粛な雰囲気の中、御影堂で行われました。

式典では代表により献香、献華、献灯が行われました。高田学苑の少女たちによる献華が会場を華やかに彩りました。さらに、婦人会による仏教讃歌のコーラスも披露され、その美しいハーモニーが参加者の心を和ませまし

た。

式典のハイライトの一つとして、90歳を超えた女性の方々への祖師寿表彰が行われました。祖師寿とは、宗祖親鸞聖人が90歳までご存命であったことにちなんで行われる特別なお祝いです。今年は419名の方々が対象となり、そのうち14名が式典に参加されました。代表者からの感謝の挨拶には、長寿を祝うとともに、先人の教えに対する感

謝の気持ちが込められていました。

その後には、武蔵野大学名誉教授である山崎龍明師による講演が行われました。講演のテーマは「親鸞聖人の魅力『その人間像と教え』」で、親鸞聖人の人間性や教えの深さについての興味深いお話をいただきました。参加者

は、その内容に感銘を受け、親鸞聖人の教えを改めて学ぶ機会となりました。今回の大会は、参加者全員にとって忘れられない貴重な経験となり、親鸞聖人の教えを再確認する素晴らしい機会となりました。

ぜひとも檀信徒研修会にご参加ください！

第77回檀信徒研修会

～重誓偈から学ぶ～

「ローソクは電気のローソクではないけないのですか？」

以前、檀信徒研修会にて質問をいただきました。「おローソクはその身を溶かしてこの私を照らしてくださいさる佛様の智慧を表す光と教えられています。火災にお気つけていただき、可能なら本物のおローソクをお使いいただくことに意味があります。」とお伝えさせていただきました

『真宗高田派』規則に檀徒及び信徒についての記述があります。

・「わが宗派の教義、宗風を信奉実践し、寺院教会に所属して、わが宗派の寺院及び教会を護持するものを檀徒という。」(第十一章第二百四十四条)

つまり寺院は、檀信徒様によって護られ成り立っているのです。檀信徒様が無ければ寺院の機能が滞ってしまいます。

高田本山で春と秋に開催される檀信徒研修会は、真宗(浄土真宗)の教えを聴聞し、高田派の歴史・作法などを共に考えていく、檀信徒様ならどなたでも気楽に参加できる大切な研修会です。

「わが宗派の教義」とは、親鸞聖人のお伝えくださった「真宗」です。聖人は御自身の御著作に「真宗」「浄土真宗」というお言葉を何度もお示しになられています。その場合は宗旨名ではなく、「まこと(真)のみむね(真)」私にとっての本当の依り処」をお教える

ださっているのです

その依り処は「お念佛」です。

その念佛のみ教えを御聴聞させていたいただくための念佛道場が真宗の寺院なのです。その中心が高田本山なのです。そしてそのみ教えに出遇うための道場を護りお支えしてくださるのが檀信徒

様なのです。

「待」という字は行人偏に「寺」。寺に行ったり来たりすることが「待つ」という字になったそうです。たくさんの皆様が高田本山檀信徒研修会にて御聴聞されることをこころよりお待ち申し上げます。

第七十七回檀信徒研修会 念仏の道場（重誓偈から学ぶ）

日時 令和七年一〇月十六日（木） 十時～十五時頃
会場 国宝御影堂 他
講師 高田派擬講 津市 報恩寺住職 芳川賢史 師
講題 「重誓偈（じゅうせいのかげ）から学ぶ浄土真宗2」
参加費 千円（昼食込み）

第九十九回仏教文化講座

八月一日から五日までの五日間、高田会館ホールにて第九十九回仏教文化講座が開催されました。猛暑の中、多くの方々にご参加いただき、十八名の皆勤賞がありました。

初日（8月1日）は法主殿による御親講「『真仏報恩塔』再考」が行われました。

埼玉県蓮田市にある真仏上人の供養顕彰碑である真仏報恩塔は埼玉県の指

定有形文化財に指定されており、真仏の弟子である唯願が建立したとされ、唯願は光蘭院本の『親鸞聖人門侶交名牒』にも真仏の弟子として記されていると言及されました。

また真仏報恩塔は文字板碑として白眉であり、建立にまつわる時代背景や、高田派の記念碑ではなく、実は反高田を表明する一大モニュメントとして造立された可能性についても言及されました。

二日目は大谷大学・東館紹見先生による「親鸞聖人と聖徳太子・観音菩薩」の講義でした。

親鸞聖人の生涯において聖徳太子と観音菩薩が大きな存在であったことを確認し、特に六角堂での夢告について詳しく考察されました。また『皇太子聖徳奉讃』の和讃を通して、親鸞聖人にとつての聖徳太子のお導きの意味を味わわれました。

三日目は花園大学名誉教授・西村恵信先生の「九十年生きて思うこと」でした。

先生ご自身の人生を振り返りながら、縁を大切にすることの意味を語られました。また後半では山田無文老師が作成された「生活信条」について説明され、特に「自分の生活を大切にする」

ことの重要性を強調されました。

四日目は中村元東方研究所・高柳さつき先生による「禪と私」の講義でした。前半では十牛図を通してさとり段階を説明し、後半では円爾を中心とした日本中世禅の思想について詳しく解説されました。当時の八宗兼学と禅が既存宗派と融合しながら発展していった様子を明らかにされました。

最終日は島義恵先生による「『真慧上人御書』における教学的特徴」の講義でした。

高田派第十世真慧上人が制作した御書について、伊勢国内での教化活動の一環として位置づけ、念仏と信心の分離、本寺崇敬、高田教団の立場の明確化という三つの教学的特徴を示されました。

このように各分野の専門的かつ多角的な視点から、仏教や真宗について新たな知見を得ることができました。

また来年は長きにわたって続けられてきたこの文化講座が、百回という大きな節目を迎える年となります。どうぞ皆様お誘いあわせの上、ますます多くの方々のご参加いただけますよう、お待ちしております。



専修寺蓮まつり

今年も6月18日から8月16日までの期間、「専修寺蓮まつり」が開催され、多くの方で賑わいました。この蓮まつりはおもに、専修寺の三つの蓮スポットで楽しむことができます。



蓮スポット

境内…鉢植えの蓮が並ぶ境内では、早朝から開花する蓮

が訪れる人々を出迎えます。高田会館前…こちらでは、広がる蓮池が見どころで、多

くの方が足を運びます。(大きなスッポンがたまに出てきます) 宝物館前…スイレンが美しく咲き誇り、訪問者の目を楽しませます。

見ごろを迎えた蓮たちは早朝に開花し、午後にはその花を閉じます。その際、「ポン」と音がするのではないかと、家族連れの方々が楽しそうに話している姿も見られました。専修寺蓮まつりは、美しい蓮と共に、訪れる人々に自然の美しさと安らぎを提供しています。

フィンランドのご一行が参拝されました。



6月11日、高田学苑の方々がフィンランドからのご一行と共に高田本山に参拝されました。御影堂に上がった皆さんは、荘厳な雰囲気や圧迫されつつ、その広大さや畳に大変興味を示されました。中には正座をしたり、合掌をする姿も見受けられ、日本の伝統に触れる貴重な機会になったようです。国境を越えた交流が、心に深い感動を与えたようです。

法会・行事案内

- 第三十一回法話発表会 九月四日 讃佛会 九月二十日～二十六日
- 仏教保育本山合同参拝 九月十九日
- 第四十九回住職補任研修会 十月八日～九日
- 第七十七回檀信徒研修会 十月十六日
- 第三十回教学院研究発表大会 十月三十一日
- 納骨堂法会 十一月三日～四日
- 秋法会 十一月五日～十日
- 資堂講法会 十一月八日～十日
- 中興上人御正當 十二月八日～十日

寺院名

世界中の多くの方々と仏縁を結ぶために、高田本山ではYouTube「専修寺チャンネル」をはじめ様々なデジタル技術を活用しています。国宝彫刻群などを動画などで紹介する「高田本山デジタルブック」もございますので、どうぞアクセスください。

